

アステラスメールマガジンです。

今回は、3月31日に開催したAstellas R&D Day、最近のニュースおよび新たなストーリーの公開についてお知らせします。

なお、当社の2025年度決算発表は4月27日15:30を予定しております。

IRミニトピックス

《IR関連情報》

■3月31日 Astellas R&D Dayを開催しました

代表取締役社長CEOの岡村直樹と研究開発担当の谷口忠明が登壇し、アステラスの研究開発戦略の全体像や中長期のロードマップに加え、規律あるポートフォリオの優先順位付けや研究開発の強化に向けたAIへの投資など、幅広い内容を発表しました。Primary Focus「視力と再生の維持・回復」の旗艦プログラムASP7317については、臨床コンセプト検証の達成を初めて公表しました。

発表資料および説明会動画などを当社ウェブサイトに掲載していますので、ぜひご覧ください。

[資料およびオンデマンド動画へのリンク](#)

■3月9日 XOSPATA（ギルテリチニブ）強力な化学療法に適応のある未治療FLT3遺伝子変異陽性AMLを対象とした第III相PASHA試験のトップライン結果が判明

HOVON財団（本部：オランダ ロッテルダム）主導のもと実施された、XOSPATA（ギルテリチニブ）の第III相PASHA試験の主要解析において、全生存期間（OS）の統計学的に有意な改善が認められず、主要評価項目は達成されませんでした。本件によるアステラス製薬の通期（2026年3月期）連結業績への影響は軽微です。

当社は、AML領域における治療成績の向上に向けて、FLT3遺伝子変異を標的とした研究を引き続き推進してまいります。

[プレスリリースへのリンク](#)

■3月18日 アステラス製薬と明治安田 最先端の医療が必要な人に届く持続可能な社会の実現を目指した協業に関する基本合意書を締結

明治安田生命保険相互会社（以下、明治安田）との間で、最先端の医療が必要な人に届く持続可能な社会の実現を目指した協業に関する基本合意書を締結しました。

両社は、それぞれが培ってきたケイパビリティや地域社会とのつながりを活かし、多様なステークホルダーや活動を共にするパートナーとの連携を拡げていきます。また、健康増進、疾患予防などに関する啓発の促進や、最先端の医療

の普及、アクセス向上への貢献などに取り組むことで、最先端の医療が必要な人に届く持続可能な社会の実現を目指します。

[プレスリリースへのリンク](#)

■3月23日 抗体-薬物複合体PADCEV（エンホルツマブ ベドチン）シスプラチン適応の筋層浸潤性膀胱がんを対象としたペムブロリズマブとの併用療法について EMAが適応追加に関する承認申請を受理

Pfizer Inc.と共同で開発を進めている抗体-薬物複合体PADCEV（一般名：エンホルツマブ ベドチン（遺伝子組換え））とMerck & Co., Inc.の抗PD-1抗体Keytruda（一般名：ペムブロリズマブ（遺伝子組換え））の併用療法について、シスプラチンを用いた化学療法に適応のある筋層浸潤性膀胱がん（MIBC）患者を対象とした術前術後の補助療法として、欧州医薬品庁（EMA）が適応追加に関する申請を受理した旨の通知を受領しました。

現在、シスプラチン適応および不適応のMIBCを対象とした適応追加について、規制当局による審査が継続中です。

[プレスリリースへのリンク](#)

■3月31日 トップマネジメント人事に関するお知らせ

2026年3月31日付で、経営戦略担当CStO（Chief Strategy Officer）のAdam Pearsonが退任しました。これに伴い、4月1日付で経営企画長のPeter SandorがCStOの職務を代行します。

[プレスリリースへのリンク](#)

■「閉経が社会と経済に与える影響」ストーリーを公開しました

アステラスは、閉経をめぐる偏見の解消、研究による知見の拡充、そして正しい情報に基づき支援する環境づくりに取り組んでいます。この記事では、閉経が世界人口の約半数が経験する自然なライフステージであるにもかかわらず、「話づらい話題」として扱われてきた現状を紹介しています。アステラスが実施した「閉経体験とその受け止め方に関する研究」では、職場を含むさまざまな場面で、閉経の症状が十分に理解されていない実態が明らかになりました。また、女性のキャリアへの影響や生産性の低下、さらには世界経済への損失など、閉経が社会全体に与える影響についても触れています。ぜひご覧ください。

[閉経が社会と経済に与える影響](#)

■「人と技術の共創で切り拓く再生医療ーロボット×AIの挑戦」ストーリーを公開しました

本ストーリーでは、人の知見、AI、ロボットといった技術を組み合わせることで、細胞医療の製造プロセスにどのような変化が生まれつつあるのか、また、パートナーとの共創を通じて、研究開発から社会実装へとつなげていくアステラスの考え方を紹介しています。当社が目指す中長期的な価値創出や、将来の医療を支える基盤づくりへの取り組みを理解いただく一助となる内容です。ぜひご覧ください。

人と技術の共創で切り拓く再生医療ーロボット×AIの挑戦

■年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の国内株式運用機関が選ぶ「マテリアリティの観点から優れた『サステナビリティ開示』」に選定されました
世界最大級の年金基金であるGPIFが、株式の運用を委託している機関に対して、企業との対話の際に有用であった「マテリアリティの観点から優れた『サステナビリティ開示』」を選定するよう依頼した結果、当社のサステナビリティ開示が高い評価を得ました。

当社は今後も、サステナビリティの取り組みの実績と進捗を積極的に開示し、社会からの期待に応えてまいります。

サステナビリティの取り組みの詳細は、統合報告書およびサステナビリティウェブサイトをご覧ください。

<https://www.astellas.com/en/about/astellas-integrated-report>

<https://www.astellas.com/jp/sustainability>

120文字のアステラス

世界のくすりになるために

どんなに効くくすりでも、

たった1錠では

ひとりの病気も治せない。

わずかな誤差すらない

同じくすりを、

無限に創る技術を手にしたとき。

その1錠は、世界の病気を治す

くすりになれる。

明日は変えられる。

アステラス製薬



IR担当者のひとことボイス

新年度が始まりました。毎年、4月1日の街の空気はどこことなく引き締まっているように感じます。満開の桜の下、当社も新入社員を迎えました。新しいスーツに身を包んだ新入社員の姿は、多忙な日々の中でつい忘れてしまいがちな初心を思い出させてくれます。

桜が散ると、いよいよ本格的な新緑の季節。力強く枝葉を広げる樹々のように、私たちもまた、新しい気持ちでこの一步を踏み出していきたいものです。

みなさまの声を聞かせください

メールマガジン読者の皆さまにご意見やご感想をお伺いするためのアンケートを実施しております。皆さまからお寄せいただいた貴重なご意見やご感想を今後のよりよいメールマガジン作成の参考とさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

アンケートフォームはこちら。

<https://forms.office.com/r/0PeK6tvvg61>

アステラスメールマガジンNo.129 (2026/4/3)

◆配信停止は下記から↓

<https://q.bmd.jp/bm/p/f/tf.php?id=bm65634vc&task=cancel>

◆発信元 アステラス製薬株式会社 (編集：広報 IR)

お問い合わせ先：<https://www.astellas.com/jp/form/individual-investors-contact>

